

5名の先生に聞きました！  
晃華学園の魅力あれこれ

今回お話を伺った5名の先生方に、晃華学園の特徴、そして日々の教育で心がけていることをお聞きしました。これを読めば同校の魅力がさらに感じられるはずです。

A組担任・田岡先生：カトリック精神に基づく全人教育を行っているのも、お互いの個性を尊重しあえる雰囲気が根づいています。また、学力はもちろん、生きるうえで大切な幅広い視野を育める環境があり、5年ほど前から生徒が自主的に、SDGs（持続可能な開発目標）に関する様々な活動を行っているのも特徴です。我々はそれを大人の立場で応援しています。さらに、開放的で広々とした校舎、自然豊かな周辺環境もポイントです。

B組担任・西村先生：好きなことに全力で取り組む、いわゆる「オタク」であっても受け入れてくれる仲間がいるのは大きな魅力でしょう。私は、生徒にはそれぞれ個性や強みがあり、それが将来的に花開くであろう「種」だと考えています。種がきちんと育つように、土を耕し、水をやり……と、きめ細かくサポートするのが教員の務めだと思っているので、今後も生徒を温かく見守ってまいります。

C組担任・中島先生：我々は5人もも学年団として中1から中2へと持ち上がりましたが、昨年からみている生徒のうち何人もが昨年に比べて大きく成長したように感じます。それはやはり伸びのびと成長できる穏やかな環境のなかで、自分に自信をつけられたからではないでしょうか。生徒たちが学校を居心地のいい場所だと思ってくれるのが一番なので、そうした空気を保てるよう、学年団一同気を配っています。

D組担任・平嶋先生：昨年唯一開催できた行事・体育祭で、私が受け持つクラスが中学の全クラスのなかで総合優勝を成し遂げました。終わったあと生徒は、教員や先輩、クラスメイトへの感謝の言葉を口にしていました。それからというもの、仲間とのきずなが深まりましたし、クラスの雰囲気も明るく、活発になりました。このような貴重な経験ができる行事を大切にしているのも、本校のよさだと思います。

E組担任・佐藤先生：「+αチャレンジ」に取り組んだ生徒たちから、コロナ禍で困窮している母子家庭に対してなにか支援ができないかと申し出があり、生徒主導で学用品の寄付を実行しました。これは、1つの挑戦が次の新しい挑戦につながったという例です。人生100年時代、卒業後も色々な場面で「挑戦」は続いていますから、生徒の主体的な姿勢を養えるように、今後も色々な工夫をしていきたいです。



集めた学用品は調布市役所の方を通して母子支援施設に届けられました。その後、お礼のメッセージが届き、生徒たちはとても感動したそうです。

# 晃華学園中学校

## 生徒の成長を促した コロナ禍に実施した「+αチャレンジ」

新型コロナウイルス感染症の影響により、入学直後から休校を余儀なくされ、その後も分散登校が続くなど、これまでとは異なる状況での学びを強いられた現中2生。そんな彼女らにも「主体的に学ぶ姿勢を養ってほしい」と考え、晃華学園中学校では昨年夏に「+αチャレンジ」を行いました。その模様を現中2を中1から受け持つ先生方に伺いました。

### 主体性を養うため 夏休みの課題にひと工夫を

現中2が中1だった昨年、晃華学園中学校（以下、晃華学園）では、中1の夏休み課題として「+αチャレンジ」を設定しました。これは、①外部コンテスト、②愛見会文化賞（父母の会である愛見会が主催する作文、紀行文、小説などのコンテスト）、③調布市 Stay Home ボランティアのいずれか1つを選んでチャレンジし、成果報告をポスターにまとめて提出。2学期にパワーポイントを用いてプレゼンテーションを行うという取り組みです。

「現代は主体性や協働性がとても重視されるようになり、大学入試でもそうした力が測られるようになり、また、しかし、それは高校生になっ



写真左から、佐藤駿介先生、平嶋尚子先生、田岡律子先生、中島優希先生、西村智絵先生

てから養おうとしてもそう簡単に身につくものではありませんから、中1の段階から鍛えていこうと考えました」と話すのは、中2学年主任の田岡律子先生です。

また、社会科の佐藤駿介先生は、「私は進路学習指導部の教員でもあるので、『ライフガイダンス』の視点から、大学のみならず、その先の社会人となったときを見据えた教育を行っていきたくて考えています。自分が興味があるものはなんなのかを考えて、新しい挑戦を外部に求めていく姿勢や、他者に自分が調べたことを的確に伝える力は、社会人になってからも生きてくるでしょう」と話します。

なお、主体性を養うための取り組みであることから、チャレンジの内容は生徒に一任していたそう。そのため、身の回りのことに目を向け、「家庭で新調した冷蔵庫に瞬時に冷凍できる冷凍室があった」という理由で、「ヨーグルトを冷やすとシャーベットができるか!？」という実験を行った生徒や、詩の展覧会に感銘を受けて自身も詩を創作した生徒、保護者の方が働く保育園でボランティアをした生徒、小学生のころから温めていた題材で原稿用紙50枚以上の小説を完成させた生徒など、チャレンジの内容は多岐にわたりました。

ただし、一任するといっても、生徒が興味を持って取り組めるよう、先生方は説明の段階で、様々な工夫を凝らしていたといえます。

「なぜこういうことをするのか、活動の目的や趣旨はしっかりと丁寧に説明しました。それをきちんと理解したうえで、想像力を発揮して取り



組んでくれました。成果物をもて、私たちが想像していた以上のものを提出してくれたと感じています」（英語科・西村智絵先生）

### 「+αチャレンジ」が 好影響をもたらす

主体性の養成以外にも、「+αチャレンジ」は様々なメリットをもたらしました。その1つが、クラスの間のかの人間関係を形成する一助となったことです。「異性の目を気にすることなく、自分の好きなことに思いきり取り組める環境なので、趣味に関する発表も多くありました。例年実施する入学式前のオリエンテーション合宿も行えなかったため、お互いを深く知らない状況でプレゼンテーションをしましたが、それがきっかけで意外な個性や特技、趣味を知り、そこから仲が深まっていっ

たようです」と話す社会科・中島優希先生。

また、「+αチャレンジ」を行う前とあとでは、生徒の物事に取り組む姿勢に変化があったといえます。国語科の平嶋尚子先生は「チャレンジする内容を自分で選ぶという経験を通して、様々な分野に視野を広く持てるようになったと思います。例えば、豪雨災害のニュースを聞いた生徒が被災地に雑巾を送りたいと申し出て、それを学年に呼び掛けて実行しました。こうした積極性は「+αチャレンジ」前には見られなかったものです」と話します。

このように、どんな情勢であつても生徒の将来を見据えて、様々な仕掛けを用意している晃華学園。今回紹介した「+αチャレンジ」をはじめ、多くの特色ある取り組みで生徒の可能性を伸ばしています。

### 学校説明会

9月25日(土) 11月20日(土)  
両日とも14:00~

### 6年生対象入試説明会

10月30日(土) 9:30~/13:30~

### 学校見学会

12月11日(土) 14:00~  
1月15日(土) 9:30~

すべて要予約

※情勢により変更の可能性があります。事前にホームページをよくご確認ください。

## 晃華学園中学校〈女子校〉

所在地 東京都調布市佐須町5-28-1  
アクセス 京王線「国領駅」・JR中央線「武蔵境駅」  
スクールバス、京王線「つつじヶ丘駅」  
「調布駅」・JR中央線「三鷹駅」ほかバス  
TEL 042-482-8952  
URL <https://jhs.kokagakuen.ac.jp/>